

令和6年度第11次千葉県職業能力開発推進検討会 議事録

1 日 時 令和6年12月12日（木） 14:00～15:25

2 場 所 千葉県教育会館304室

3 出席委員（敬称略）

学識経験者	千葉職業能力開発短期大学校	校 長 紀 高志
	千葉県高等学校教育研究会進路指導部会	部会長 菊屋 泰男 (大網高等学校 校長)
事業主代表	千葉県職業能力開発協会	会 長 赤星 健二
	千葉県中小企業団体中央会	副会長 熊谷 正喜
労働者代表	日本労働組合総連合会千葉県連合会	事務局長 中島 正敏
	全日本電機・電子・情報関連産業労働組合連合会 電機連合千葉地方協議会	事務局長 野田 泰造

以上 出席委員6名

4 会議次第

1 あいさつ（鈴木産業人材課長）

2 委員紹介

3 副会長指名

4 議題

第11次千葉県職業能力開発計画の令和5年度実績等について

5 その他

5 議題に係る検討の概要

○事務局

以下について、各資料を用いて説明。

- ・第11次千葉県職業能力開発計画〔概要〕（資料1－1）
- ・第11次千葉県職業能力開発計画事業の進捗管理表（資料1－2）
- ・リスキリングへの支援について（資料1－3）
- ・テクノスクールの再編・整備について（資料1－4）
- ・第11次千葉県職業能力開発計画の目標に対する取組について（資料2）

○熊谷委員

・テクノスクールの入校率について、数字だけ見ると名前を変えてまだ効果が出ていないと思うが、私自身はテクノスクールの名前を目にする機会は増えた。地道な努力が実を結んでくると思うので、少しでもものづくりに興味のある子供たちが興味を持って、学校にチャレンジしようかな、と思わせるようなアクションを引き続き行ってもらえればよいと感じている。

○中島委員

・パンフレットを配布したとのことだが、直接学校に行って説明をするなどの取組は行ったのか。

○事務局

・パンフレットを配布した時期とは異なるが、当課の職員がこのパンフレットを持って関係機関を回っている。

○中島委員

・テクノスクールが選ばれないとなっているのなら丁寧なアプローチをした方がよいと思いお話しした。もう1つ。離職者等再就職訓練事業だが、目標に達していないが、正社員の割合はどのくらいか。また、目標未達成の要因は求人と求職のミスマッチということだが、企業側のニーズをどのように把握しているのか。

○事務局

・正社員という形での集計はしていない。労働局との検討会でも（就職率の低下について）話をしているが、全国的にデジタル人材の就職率が低い。フルテレワークでの就労を希望している求職者も多いようであるが、実際の就労で採用時から（フルテレワーク）は難しいといったこと、企業の求めるスキルに求職者のスキルが十分に達していないなどのミスマッチが起きているようである。

○中島委員

・事業の委託先の選定を厳しくし、入替えを行うなどしないと（就職率の）数字が上がってこないのではないかと思うので、検討頂きたいと思う。

○野田委員

・障害者就業・生活支援センター事業の相談件数は年間約6万3千件であり、また企業支援員の相談件数は約6千件であり非常に多い印象だが、他県でも非常に多くなっているのか。どのような体制でやられているのか。

○事務局

・企業支援員事業については、県の独自事業のため、他県の状況は不明である。障害者就業・生活支援センターは各県にあるが、千葉県は圏域全てに設置できており、千葉県は進んでいるといえる。また、同じ企業から相談を受けた場合も累計でカウントしているなどの理由から件数が多くなっている。
・就職して終わりではなく、定着も重要と考えており、きめ細やかに相談に応じている。そのような関係からも件数が多くなっている。

○野田委員

・県立工業系高校との共同パンフレットについて、見やすく若者向けに作られており、修了生のコメントなどもあり良い印象を持ったが、SNSを使用し、もっと動画を撮ったりして、若者向けに工夫して誘導していけると更によい。

○菊屋委員

・千葉工業高校の校長と話をしたが、産学官連携の組織の工業系高校人材育成コンソーシアム千葉を通じてPRしていけると良い。去年度まで勤務していた成田西陵高校においては、ものづくりマイスター制度について造園や食品関係のマイスターを活用しており、（現在校長を勤める）大網高校でも、ものづくりマイスター制度の活用を進めている。DX化に関して高校教育はWi-Fi整備を含め遅れている。教育委員会の方でも力を入れようとしているが、予算が確保できていない。予算が確保できるなら、そういったことを委託等により進めていけると良いと考えている。

○事務局

・工業系高校人材育成コンソーシアムには当課も参加しており、ワーキンググループや総会にも参加させてもらっている。ものづくりマイスターも活用いただき、ありがたい。工業高校・農業高校等の専門高校と広く人材育成で協力していきたい。

○菊屋委員

・昨年いた学校で3年間園芸の勉強をやっていて卒業したら電気工事士になりたいという生徒もいた。まず職員が工業系にこだわらず色々な訓練校を知ることが大事である。進路指導部会では専門高校進学のための連絡協議会を設けているので、そちらとの繋がりも大事と考えている。

○赤星委員

・よくやって頂いていると思う。厚生労働省の資格と経済産業省の資格を共通化してもらおうということを進めていてそれはある程度済んだ。経済産業省の絡みで言うと、軽金属溶接協会は全国展開している社団法人だが拠点を持っていない。そこで、テクノスクールの施設を講習会や試験に使わせてもらうような相談をまず千葉県からできればと思っている。

○事務局

・技能検定等でも使用しているので、訓練の合間で、使用していない間などであれば、使えなくはないと思う。

○赤星委員

・ものづくりは大事にしていかなければならない。一企業としては、昔から積極的に

進めている。うちは創業の時から、全員正社員で雇用している。技能レベルを上げる
ことには必死になってやってきた。インターステラテクノロジズという宇宙関係の事
業も国の予算が入り行われるが、我々も参加している。

○紀委員

・高校の先生などから、千葉職業能力開発短期大学校が男子校と勘違いされたりする
場合がある。この時点で応募対象者が男子に絞られて半分になってしまう。ものづく
り製造業や建設業は、男性職種だという固定概念があり、そういったイメージを変
えていかなければダメだと思っている。例えば、溶接なんかやると女性の方が上手だ
ったりする。男性職種ではないことを広く一般広めていく方策が必要である。以前の
勤務先では、小さいことであるが、女子学生が興味を示すようマシニングセンタでブ
ローチを作ったりしていたこともある。

・我孫子テクノスクールの女子訓練生が若年者ものづくり競技大会で敢闘賞を受賞
した。こうした凄いことを成し遂げたのだから、もう少しマスコミなどで取り上げて
もらう仕掛けが必要だと思っている。

たまたま、来週、千葉県の職業能力開発記念式典があるが、そういった場において
功労を讃え卓越技能者等の表彰などがあるが、出来れば、コンクールや技能検定取得
者等の中で優秀な成績だった若い人の表彰なども一緒にしてもらえると良いと思っ
ている。若い人を取り上げてもらうことによって若い人のモチベーションアップにつ
ながる。

○赤星委員

・若い人をぜひ表彰してほしい。私のところも高校卒業して何年も経たない人が全国
コンクールに出るなどして頑張っている。

○紀委員

・そういった方々を県として、表彰されるとよい。昨年度、茂原樟陽高校の生徒が若
年者ものづくり競技大会の造園の部で入賞している。表彰されるのは高校生でも全然
かまわないと思う。

○赤星委員

・若い人をどんどんそういう場面に引っ張り出していけると、他の若い人もやってみ
ようとなるのでは。

○紀委員

・テクノスクールの入校率低下の要因に少子化・進学率向上など外的要因を書してい
るが、その時点で数値は上がらない。何をすればよいか具体的に描く必要があり、根
底は営業力を高めるということが一番大事である。

・安房高校出身で職業訓練の祖である成瀬正男氏がスイスに行って学んだことの中

に、土地を持っている戦争孤児は農業を営みなさい、土地がない戦争孤児は、腕を磨いて技能・技術の向上を図り、社会で生きる力を身につけなさいというのがある。これがスイスが職業訓練の発祥と言われるゆえんでもあるし、今日のスイスの精密機器を中心とした製造業の力となっている。こうした歴史を持ち込んだ人が千葉県の偉人としているので、うまく成瀬正男氏を活用した広報活動等が出来ないかと思っている。

営業力といっても、専門学校・大学そういうところと勝負するという話ではなくて、専門学校・大学を含めた県全体として工学系・ものづくりへの興味関心・認知度を上げていかなければいけない。その一つとしては、応募対象者に男子だけ見ているというところを女子も含まれているということを広めていかなければならない。

○紀委員

- ・コミュニケーション能力を向上させるための研修とはどういったものか。

○事務局

・製造業もチームで動くので「チームワークとは」と言うような研修である。我孫子テクノスクールの女子訓練生が若年者ものづくり競技大会で敢闘賞を受賞した件だが、千葉県広報Xで発信したりして、千葉日報にも大きく取り上げられた。女性の場合、顔だしが不可の方が多いが、顔だし可能な方などで、積極的に女性の活躍を広報していきたい。

○紀委員

- ・船橋テクノスクールにも女性の先生がいる。うまく広報として活用できれば良い。
- ・技能検定などがすごいということであると、もっと広く一般に知ってもらう手立てが必要である。

○野田委員

- ・技能五輪には、テクノスクールから毎年何名か出場しているのか。

○事務局

- ・毎年というわけではないが、近年は我孫子テクノスクールの造園科が出場することが多い。

○野田委員

・技能五輪の関係で、以前政策要望を出したかと思うが、テクノスクールに何か金銭的支援はあるのか。千葉県は他県と比較して出場している人数が少ない印象がする。金銭面が足りないのか、やっている余裕がないのかは分からないが、賞を取ればPRになるし本人のやりがいにもなるし、活用した方がよいと思う。

○事務局

- ・技能検定の募集をする時に技能五輪に参加しませんかというようなチラシを作成し挟み込んだりしている。そこには前年度の大会で賞を取った人の写真やコメントを掲載し、なるべく多くの人に技能五輪に参加して頂けるようPRしている。

○野田委員

- ・技能五輪に出場する時は、学校で何人選抜してというよりも個人で選択して出場するのか。

○事務局

- ・そうである。

○野田委員

- ・そうすると出る人があまり出てこないのではないかと思います。

○紀委員

- ・若年者ものづくり競技大会に出場する選手を毎年大会前に千葉市長や成田市長のところに連れていき激励会を行って頂いている。マスコミも何社か取り上げていただいている。今後、出来れば、県で出場する選手がいる際に、全選手を県でも激励して頂けたら、選手の励みにもなるし話題になると思う。